

1 : 第4回勉強会における確認事項等

○ 質疑 ● 意見

- スイス(オイラハ川)において地下放水路を通り、遊水地へ入っていくということであるが、下流にネック部があるためこのような形式をとっているのか。
⇒ 今回(第5回)勉強会で事務局から説明
- 地下河川(福岡県 高尾川)の整備事例は今年度も大きな効果を発揮している。その一方で、本件は河道下を地下河川として整備しているため、カーブが多く、施工上の課題があったように思う。今後、地下河川を検討していく上では、施工性も配慮した線形で計画を検討していくことが重要であると思われる。

2 : 「気候変動を踏まえた河川整備」について

○ 質疑 ● 意見

- 現在、国土交通省では、気候変動を踏まえた、計画の見直しを進めているが、増加した基本高水流量を確保するために、全国の各河川の状況に応じて様々な対策の手法が検討されている。
- これまでも、河道配分流量の増大のため、引堤や河床掘削などの工事を進めてきているところだが、今後の気候変動を踏まえた河川整備において求められる流量を河道に求めることは、河川周辺の土地利用など、課題、限界がある河川(箇所)も多いと想定される。そういった河川において、地下空間の利用というのは今後の計画を検討する上で期待は高いと思われる。
- 現在取り組まれている流域治水において、「ダム等での調節流量」や「河道への配分流量」以外に計画を策定する上で期待できるものはあるか。
⇒ 現在の流域治水での水田貯留等の取り組みは、本川のピーク流量に対し、大きな効果が発揮されるものではないため、流量配分に見込むことは難しいというのが現状。
- 地下空間を活用、整備にあたって発生した土砂を堤防強化へ活用するといったことも考えられるか。
⇒ 資料では地下空間の活用と堤防強化はセットというわけではなく、あくまでも個別の整備手法を示したもの。
ただし、実際に発生した土砂を他の必要としている用途(コンクリートの骨材利用や養浜)に利用することは重要。

【戸田委員ご質問】

スイス（オイラハ川）において、地下放水路を通り、遊水地へ入っていくということであるが、下流にネック部があるため、このような形式をとっているのか

→ 下流の暗渠部（ $31\text{m}^3/\text{s}$ ）がネックとなっており、必要な流量（1/100確率、 $51\text{m}^3/\text{s}$ ）を確保するため、遊水地の整備を実施

